from the world

世界の国から

モザンビーク共和国

Republic of Mozambique

ケンワッティ・ムアンド（サティ・ローヒット）氏
モザンビーク投資促進センター（CPI）
プロジェクト・マネージメント部
プロジェクト・オフィサー
Ms. Khemwattie Muando (Sattie Rohit)
Project Officer,
Project Management Department,
Investment Promotion Centre (CPI)

ナンディオ・ドゥラン氏
UNIDOアドバイザー
Mr. Nandio DURAO

首都　マプト
面積　約79.9万平方キロメートル（日本の約2.1倍）
人口　2,583万人（2013年、世銀）
政体　共和制
元首　フィリッペ・ジャシント・ニュシ大統領
言語　ポルトガル語
通貨　メティカル

南部アフリカ内陸部への玄関口

戦略的な位置と順調な投資

モザンビークはアフリカの南東岸に位置し、タンザニア、ザンビア、マラウィ、ジンバブエ、南アフリカ、スワジランドの6カ国と国境を接しています。東南アフリカ地域の主要マーケットに接するほか、インド洋に面した2,500kmの海岸線と複数の国際港湾都市を有することから、アラビア半島やアジア地域の市場へのアクセスも容易です。

また、過去10年間の平均成長率が7%台と安定した経済成長を遂げており、世界中から大規模な投資が多様な産業へ流入しています。直近の5年間だけで200億米ドルもの資金流入があり、著しい経済成長の原動力となっています。

3度目の来日となる今回は東京、名古屋、大阪でセミナーを行いました。いずれも盛況で、資源関連、食品輸入・加工、コンサルタント関係など、様々な業種の日本企業から高い関心が示されました。

日本企業の活動

モザンビークへは日本企業も多く進出しています。例えば、三井物産は現地の企業と合弁で天然資源の開発を行っていますし、双日は100%自己資本で進出し、ウッドチップの製造を行っています。中古品販売の分野で現地企業と直接取引を行う企業もあり、それぞれの企業が自分に合った形でビジネスを展開しています。現在はあまり例がありませんが、将来的に可能性があるのは現地企業との合弁だと思います。良質な情報やネットワークを持つ現地の企業と組んでビジネスを行うのが成功の秘訣ではないでしょうか。

首都マプト（写真提供：モザンビークの会）

また近年、膨大な天然ガスの埋蔵量が確認されたことを受け、ガス開発とそれに付随する産業に注目が集まっています。物流やガス輸送等の分野は、高い技術を持つ日本企業の力がぜひとも必要です。水産物加工や貿易業にもかなりの可能性があります。また、特筆すべきプロジェクトとして、北部のナカラ回廊開発が挙げられます。この地域では、日本、ブラジル、モザンビークの3国が合同で農業開発支援プロジェクトを展開中ですが、一帯全てを開発する建設、電力供給、ナカラ港拡張等のプロジェクトも予定されており、多くのビジネスチャンスがあります。

2015年は決断の年

日本とモザンビークとの二国間投資協定が2014年8月に発効したこともあり、両国でビジネスの機運が高まっていると感じます。モザンビークでは日本人の仕事に対する目的意識の高さや勤勉さが有名で、日本企業に対して高い信頼を置いています。

日本での見聞を踏まえ、両国はビジネス分野だけでなく、文化的、社会的にも良いパートナーになれると確信しています。どちらの国民もシーフードが大好きですし、年配の人や祖先に対する敬意を大切にするなど、共通点も多いと思います。首都のマプトは比較的治安がよく、英語も通じ、レストランやカフェも充実しているので、日本の皆さんにも安心してお越しいただけます。

今年モザンビークは独立40周年を迎えます。ぜひこの節目の年に、モザンビークへ進出し、モザンビークの発展に力を貸して頂きたいと思います。

イニャンバネ州の海岸（写真提供：モザンビークの会）